

Economic Monitor

所 長 三輪裕範 03-3497-3675 miwa-y@itochu.co.jp
主任研究員 丸山義正 03-3497-6284 maruyama-yo@itochu.co.jp

輸出低迷が深刻化し、日本経済はマイナス成長に(9月貿易統計)

米中向けを中心に輸出の減少が深刻化する一方、輸入は発電燃料を中心に増加したため、貿易収支は名目と実質共に大幅悪化。日本経済は7～9月期が輸出減少により、10～12月期はエコカー補助金終了による自動車販売減少により縮小が避けられず、2四半期連続のマイナス成長となる見込み。

米中向けを中心に輸出が大幅に減少

財務省が公表した9月の貿易統計によると、輸出額(名目輸出)は前年比▲10.3%(8月▲5.8%)と4ヶ月連続で減少かつ減少幅も大きく拡大した。財務省試算の季節調整値は前月比0.9%(8月▲2.0%)と持ち直したものの、8月まで4ヶ月連続で減少した反動に過ぎない。価格変動の影響を除いた当社試算の実質ベース・季節調整値では、9月に▲2.2%(8月▲1.9%)と3ヶ月連続で減少、四半期ベースでは7～9月期に前期比▲5.0%(4～6月期3.3%)と大きく落ち込んでいる。内訳を見ると、後述するように、9月は自動車関連を中心に米国向けや中国向けの落ち込みが目立った。世界経済の減速が先進国から新興国へ広がっていることに加え、日中間のトラブルも日本からの輸出押下げに繋がった模様である。

燃料輸入が再活発化

輸入額(名目輸入)は前年比4.1%(8月▲5.4%)と2ヶ月ぶりの増加に転じた。財務省試算の季節調整値では前月比10.0%(8月▲0.4%)と二桁増加、実質ベース季節調整値でも8.7%(8月▲4.2%)と高い伸びを示しており、9月の輸入は急増したと言えるだろう。夏場に一服していた発電用燃料の輸入が、冬季の電力需要拡大期に備えて再活発化したことに加え、9月下旬に発売されたスマートフォン新モデルの輸入拡大が寄与した模様である。実質輸入は8月まで低調だったが、9月の急増によって、7～9月期では前期比0.1%(4～6月期2.5%)と横ばいまで持ち直している。

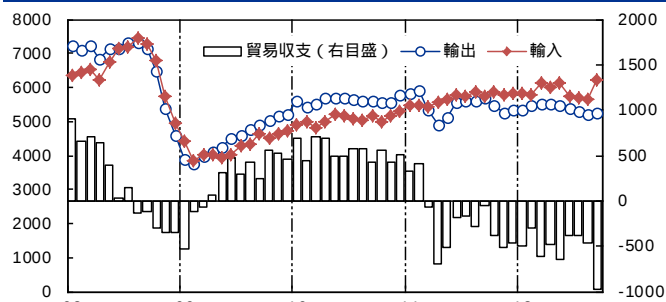
季節調整値で貿易赤字は過去最大に

市場予想との対比で見ると、輸出は小幅の下振れ(実績前年比▲10.3%、市場予想▲9.9%)にとどまったが、輸入が大きく上振れしている(実績前年比4.1%、市場予想2.9%)。そのため、貿易赤字は原数値が▲5,586億円(8月▲7,559億円)季節調整値では▲9,803億円(8月▲4,619億円)へと、市場予想(原数値▲5,479億円、季節調整値▲7,603億円)を共に上回って拡大した。赤字幅は、原系列が9月として過去最大、季節調整値では連続性のあるデータに基づく限り、統計開始以来の最大である。

日本経済は2四半期連続のマイナス成長に

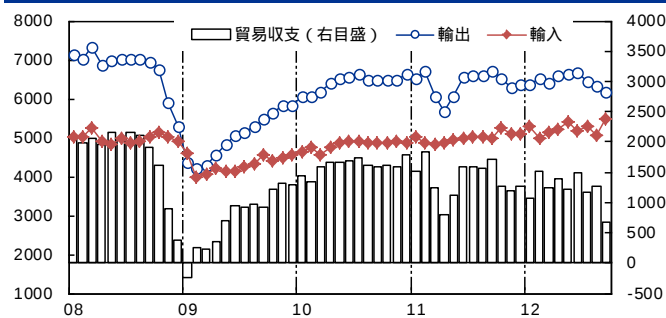
GDPを占う観点から実質ベースの財輸出入を見ると、

名目輸出入の推移(10億円、季調値)



(出所) 財務省

実質輸出入の推移(10億円、季調値、2005年基準)



(出所) 財務省、日本銀行

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、伊藤忠経済研究所が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。記載内容は、伊藤忠商事ないしはその関連会社の投資方針と整合的であるとは限りません。

7～9月期は実質輸出が前期比▲5.0%と大きく落ち込む一方、輸入は0.1%と減少を回避したため、収支の黒字幅は▲24.5%と大幅に縮小している。貿易統計による財貿易の動向に、国際収支統計などにに基づきサービス貿易を加味した上で（但し9月は当社予想値）GDPベースの実質輸出入を当社が試算すると、輸出は前期比▲4%程度、輸入は横ばい程度となり、輸出から輸入を控除した純輸出は前期から3割程度の縮小を記録、実質GDP成長率を前期比▲0.7%Pt程度と大幅に押し下げた見込みである。9月の輸入が上振れしたことで純輸出の押し下げ度合いが当社の想定より膨らんだため、7～9月期のGDP成長率はマイナスがほぼ確定したと言える。なお、10～12月期は純輸出のマイナス寄与こそ縮小する見込みだが、エコカー補助金終了に伴う自動車販売の急減により個人消費の落ち込むため、日本経済は2四半期連続のマイナス成長が避けられない。

輸出の仕向け地別動向

在庫復元一巡で米国向け自動車輸出が減少

9月の実質輸出を仕向け地別に見ると、米国向けと中国向けの落ち込みが目立つ。両国向けで輸出全体を前月比▲2.4%Ptと大きく押し下げ（寄与度は米国▲1.4%Pt、中国▲1.0%Pt）実質輸出全体の減少率2.2%を上回っている。裏を返せば、他の地域向けは伸びてはいないが、9月に一層落ち込んだ訳ではない。

米国向けは前月比▲7.4%（8月1.1%）と大幅に減少した。自動車を中心に輸送用機器輸出が▲10.7%（8月▲6.9%）と落ち込んだ影響が大きい。輸送用機器輸出は4～6月期まで4四半期連続で増加、累積で8割も伸びたが、米国内での在庫復元が終了したために7～9月期は減少へ転じた。しかし、米国内の自動車販売は寧ろ増勢を強めており、かつ日本車の販売も好調なことから、10～12月期以降は需要に見合うかたちでの伸びは確保する可能性が高いだろう。

中国向けは設備投資向けと自動車が低調

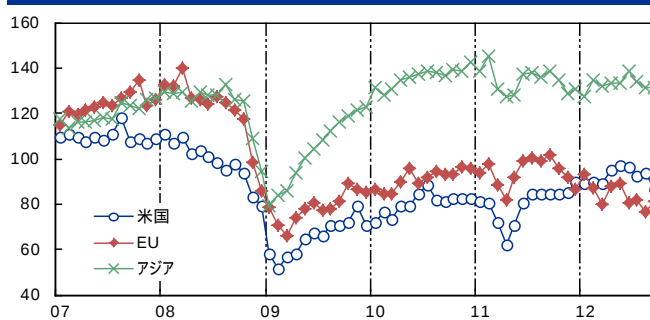
中国向けは前月比▲5.2%（8月0.3%）と減少した。設備投資向けが中心の一般機械が▲13.8%（8月▲2.5%）、輸送用機器は▲10.7%（8月▲8.2%）と共に二桁減少を記録している。中国国内での在庫調整に加え、日中間のトラブルも輸出の減少に繋がりがつつあると考えられる。

なお、中国向けは落ち込んだもののNIEs向けが前月比3.5%（8月▲2.3%）ASEAN向けは2.6%（▲6.8%）と共に3ヶ月ぶりに増加したことから、アジア向け全体では前月比0.4%（8月▲1.9%）と横ばいだった。

EU向けは9月に持ち直したが...

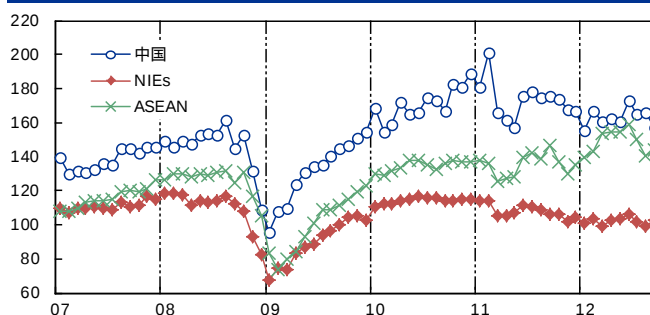
EU向けは9月に前月比6.5%（8月▲6.5%）と2ヶ月ぶりに増加した。しかし、7～9月期で見れば前期比▲7.0%と4四半期連続で減少しており、域内経済の低迷を受けてEU向け輸出が低調なことに変化は見られない。

地域別実質輸出の推移（2005年=100）



（出所）財務省、日本銀行

対アジア実質輸出の推移（2005年=100）

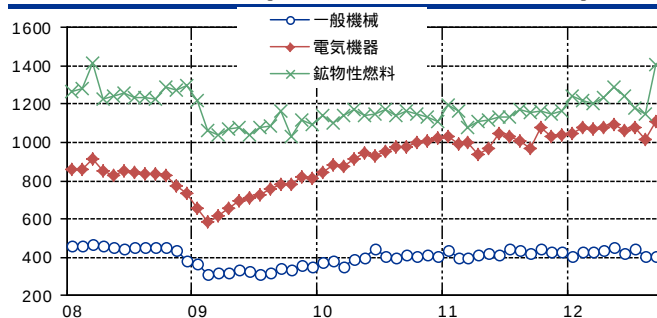


（出所）財務省、日本銀行

輸入増加は発電燃料とスマートフォン

9月の実質輸入額を品目別に見ると、鉱物性燃料が前月比23.0%(8月▲2.7%)と4か月ぶりに急増したことが目立つ。鉱物性燃料だけで、輸入全体を5.2%Ptも押し上げている。また、9月は電気機器の輸入も9.3%(8月▲5.9%)と大きく伸び、輸入全体を1.9%Pt押し上げた。こちらは前述のとおり、スマートフォン新製品の発売に伴う輸入増加と考えられる。輸入地別に見ると、同製品の組立拠点である中国からの電気機器輸入が27.8%(8月▲9.0%)と急激に伸びている。

実質輸入の推移（実質、2005年基準、10億円）



(出所)財務省、日本銀行